

世界のオレンジ市場(抜粋)

FreshPlaza 2025年5月16日

北米：南アフリカ産ネーブルが入荷する中、カリフォルニア州産柑橘類は品質を維持 カリフォルニア州産のネーブルオレンジとバレンシアオレンジの両方について、引き続き需要が供給を上回っており、生産者と出荷業者は安定した供給の維持に努めている。

カリフォルニア州の柑橘類シーズンは夏の気温が高く、果実の糖度の上昇と酸度の低下を促し、2024年と比較して高品質な果実が生産された。果実の品質の向上にもかかわらず、収量の向上と増加した収穫物を売りさばくための販売促進活動により、今シーズンの価格は昨年よりわずかに低くなっている。ここ最近はこの時期の典型的な傾向である価格の持ち直しが見られる。

カリフォルニア州のネーブルオレンジの供給量は、収穫の終了に伴って次第に減少している。これらのオレンジは、6月末まで市場に出回るものと予想される。南アフリカ産ネーブルオレンジの最初の入荷が同じ頃に予定されており、カリフォルニア州産から南半球産の供給へのスムーズな移行が確保される。

晩生の品種であるバレンシアオレンジについては、カリフォルニア州は豊富な供給量を維持しており、需要を支えると予想される今後の販促の取組みによって補完される。小売業者が夏の柑橘類品種の販促に力を入れることから、夏季の好調な価格設定環境が米国産柑橘類の販売をサポートすると予想される。

ブラジル：収量の増加と果樹園の拡大が生産量の伸びを牽引 柑橘類栽培保護財団(Fundecitrus)の最近の発表によると、世界最大のオレンジ果汁産地であるサンパウロ州及びミナスジェライス州(三角地域/南西地域)の柑橘類地帯の2025/26年度のオレンジ出荷量は、3億1,460万箱(40.8kg/箱)に達すると予測される。これは前シーズンの2億3,087万箱に比べて36.2%多く、過去10回の収穫の平均よりも4.8%多い。

予想される生産量増加の主な要因は、1果樹当たりの果実数の増加であり、これは2回目の開花期の良好な気象条件と園地管理の改善の結果である。さらに、同団体のこの地域の最新の果樹台帳データによって、結果樹本数が増加したことが確認された。

更新された台帳によると、柑橘類地帯には現在、1億8,270万本の結果樹があり、総面積は36万2千ヘクタールに上る。これは、2022年に実施された前回のセンサスと比較して、1,270万本(7.5%)及び1万8千ヘクタール(5.2%)の増加を示している。

スペイン：天候が品質に影響を与える一方、輸出はまちまちの結果に スペインのオレンジ価格は上昇を続けており、5月上旬の時点で過去5シーズンの平均を約17%上回る水準に達している。アンダルシア州では、果実の集出荷センターが、果皮の水染み等の問題を引き起こした最近の降雨による品質上の問題を注意深く監視し、管理している。さらに、ここ数週間の暖かい気温は、アンダルシア州の様々な柑橘類産地で早期の開花をもたらした。

バレンシア州では、レーンレイト品種のネーブルオレンジの取扱いが3月に終了し、4月の販売量は限定的であった。シーズン後半に入ってから、市場での柑橘類の引き合いが着実に強まり、4月を通じて高い水準を維持した。その結果、最も晩生の柑橘類品種の販売は急速に進み、4月末までに完了に近づいた。

輸出に関しては、アンダルシア州では2月までの輸出量が前シーズンの同時期と比較して11%増加した一方、輸出額は2%減少したと報告されている。バレンシア州でも、公式データによると9月までの輸出量が6.5%増加したが、輸出額は1.7%減少した。

南アフリカ：バレンシアオレンジの中東向け出荷が急増、ネーブルオレンジは減少 南アフリカ北部で続いた降雨により、当初、同国のオレンジ輸出シーズンの開始が遅れ、オレンジとレモンの両方に影響を及ぼした。それにもかかわらず、中東向けの出荷は進んでおり、これまでに出荷されたバレンシアオレンジ - 南アフリカの予想年間総出荷量5,200万箱(15kg/箱)のほんの一部 - の65%を占めている。

バレンシア種の予想輸出量は、昨年と比較して300万箱以上増加した。対照的に、多くの農場で減少したネーブル種の今年の出荷量は2,610万箱と予想されている。南アフリカの柑橘類業界では、ネーブル種の出荷量は減少を続け、最終的には約2,160万箱で落ち着くと予想している。

中東諸国では南アフリカ産オレンジに対する強い需要が示されており、インドもバレンシア種の非常に大きな市場とされている。ある輸出業者は、インドの需要は自社の供給可能量を超えていると説明した。しかし、南アフリカ全体としてこの需要を満たすことができるかどうかは不明である。

昨年は、オレンジ果汁の価格が少なくとも3年間は歴史的に高い水準にとどまるという楽観的な期待があった。しかし、価格は既に下落している。2024年には、果汁の価格が非常に高く、オレンジの輸出用の梱包を一切行わず、代わりに収穫した果実をすべて果汁工場に送ることを選んだ生産者もいた程であった。

エジプト：輸出よりも国内の需要と加工を優先 2024/25年度のエジプトのオレンジ出荷シーズンは、通常の前月末に対し4月上旬という異例の早さで終了した。同シーズンは、生産量の減少、大玉のオレンジの不足、現在も進行中の紅海の危機、輸出補助金の削減、及び同国内でのオレンジ果汁濃縮工場の出現など、いくつかの重要な展開が特徴的であった。これらの要因が相まって、国内市場の重要性を高め、価格を押し上げ、従来エジプト産オレンジに依存してきた海外市場での不足につながった。

バレンシアオレンジの出荷シーズンは、例年より早く1月に始まり、すぐに課題に直面した。生産量は、その前の年(2022/23年度)と比較して21%増加した前シーズンよりも約25%減少した。さらに、バレンシア種の生産物の90%は中玉(入数72、80及び88)の果実で構成されていた。グローバルGAPの基準が刷新されたため、エジプトの多くの輸出業者はヨーロッパ市場にアクセスできなくなり、他の輸出業者は輸出補助金の大幅な削減によりオレンジの輸出から撤退した。

エジプト政府は、8~10%であった輸出補助金を2024年11月からわずか2.4~3%に削減した。また、これらの補助金を獲得するためには、外貨をエジプトポンドに交換することが条件となり、以前は農産物の輸出によって外貨を入手していた輸出業者にとって魅力が減少した。この変化により、かつてはエジプト産オレンジを安価で大量に引き取っていたサウジアラビア等の主要市場への輸出量が減少した。

さらに、現在も進行中の紅海の危機により、2023年に危機が始まる前にはエジプトの輸出量の30%以上を占めていたアジア諸国向けの輸出が制限された。また、港湾の混雑等の物流上の問題により、ヨーロッパへの輸送時間が長くなった。例えば、オランダへの輸送には現在最大50日かかり、複数の荷が同時に到着した際の供給過剰と不足する期間が交互に発生している。

バレンシア種のオレンジ価格は、昨シーズンの水準の30%下から35%上まで大きく変動した。平均して、価格は昨シーズンよりも20%高かった。シーズンが進むと、ネーブルオレンジの状況はさらに困難になった。(国内の果汁向け需要の影響(No. 54参照)については省略)

モロッコ：干ばつと競争が輸出機会を制約 モロッコでは過去2シーズン、生産者と輸出業者がソフト柑橘類と国内のオレンジ市場に重点を置いたためオレンジの輸出が後回しにされた。この変化は主に、豊富な生産量が市場を飽和させているエジプトとの競争の激化により、オレンジの収益性が低下したためである。同時に、モロッコの深刻な干ばつにより生産コストが上昇し、オレンジ生産者の利益がさらに縮小した。

モロッコの輸出業者達は今年、エジプトが国際市場に残した予想外の品不足を活用するのに苦心している。ネーブルオレンジやマロクレートオレンジは、主に国内市場向けに生産され、量が少なく、輸出に必要な品質基準を満たさないことが多いため、4月以降はこれらの供給の確保が困難であることが明らかになった。

モロッコの柑橘類セクターは現在、慎重なアプローチを採用しており、生産者達は南アフリカ、トルコ等の他の主要生産国のこの輸出シーズンの動向を注意深く監視している。モロッコのオレンジ輸出が来シーズンに再び魅力を取り戻すかどうかは、まだわからない。

執筆者：ステファン・ヤンセン・ファン・ニューウェンハイゼン